

主な医薬品とその作用

問1 かぜ及びかぜ薬に関連する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 かぜとよく似た症状が現れる疾患には、髄膜炎、リウマチ熱、関節リウマチ、急性肝炎などがある。
- 2 かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去することにより、^{せき}咳や発熱といった諸症状の緩和を図るものである。
- 3 インフルエンザ（流行性感冒）は、かぜと同様、ウイルスの呼吸器感染によるものであり、感染力は強いが重篤化することはない。
- 4 かぜ薬の服用期間中は、酒類（アルコール）を摂取すると効果的である。

問2 かぜ薬の配合成分とその配合目的の関係が正しいものはどれか。

【配合成分】	【配合目的】
1 クレマスチンフマル酸塩	— 発熱を鎮め、痛みを和らげる。
2 リゾチーム塩酸塩	— くしゃみ、鼻汁を抑える。
3 デキストロメトर्फアン臭化水素酸塩	— 炎症による腫れを和らげる。
4 アセトアミノフェン	— 痰の切れを良くする。
5 プソイドエフェドリン塩酸塩	— 鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡張する。

問3 アスピリンに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アスピリン喘息は、アスピリン特有の副作用であり、他の解熱鎮痛成分では生じない。
- b 医療用医薬品では、血栓ができやすい人に対する血栓予防薬の成分としても用いられている。
- c 15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。
- d 他の解熱鎮痛成分に比較して胃腸障害を起こしにくく、空腹時に服用しても問題ない。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問4 解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛薬とは、発熱や痛みの原因となっている病気や外傷を根本的に治すものではなく、病気や外傷が原因で生じている発熱や痛みを緩和するために使用される医薬品（内服薬）の総称である。
- b 解熱鎮痛薬の連用により頭痛が常態化することがあるので注意を要する。
- c 多くの解熱鎮痛薬には、体内におけるプロスタグランジンの産生を促す成分が配合されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

問5 カフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 腎臓におけるナトリウムイオン（同時に水分）の再吸収促進作用がある。
- b 脳に軽い興奮状態を引き起こす作用がある。
- c 胃液分泌亢進作用があり、その結果、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐）が現れることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

問6 眠気を促す薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ブロムワレリル尿素は、脳の興奮を抑え、痛覚を鈍くする作用がある。
- b ブロムワレリル尿素を含有する催眠鎮静薬は、胎児に障害を引き起こす可能性がないため、妊婦の睡眠障害の緩和に適している。
- c 抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬の場合、目が覚めたあとも、注意力の低下や判断力の低下等の一時的な意識障害、めまい、倦怠感を起こすことがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

問7 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジメンヒドリナートは、ジフェンヒドラミンテオクル酸塩の一般名で、専ら乗り物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。
- b 不安や緊張を和らげることを目的として、アミノ安息香酸エチルのような鎮静成分が配合されている場合がある。
- c 胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐きけを抑えることを目的として、ジプロフィリンのような局所麻酔成分が配合されている場合がある。
- d 脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として、キサンチン系成分が配合されている場合がある。

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問8 小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 漢方処方製剤は、生後3ヶ月未満の乳児に使用しても問題ない。
- b 構成生薬にカンゾウを含まない漢方処方製剤として小建中湯がある。
- c 代表的な配合生薬の一つであるレイヨウカクは、ウシ科のサイカレイヨウ（高鼻レイヨウ）等の角を基原とする生薬で、緊張や興奮を鎮める作用等を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

問9 鎮咳去痰薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ノスカピンは、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑える。
- b メチルエフェドリン塩酸塩は、その作用本体であるエフェドリンがモルヒネと同じ基本構造を持ち、依存性がある成分であり、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。
- c コデインリン酸塩は、妊娠中に摂取された場合、吸収された成分の一部が血液・胎盤関門を通過して胎児へ移行することが知られている。
- d 中枢性の鎮咳作用を示す生薬成分として、ナンテンジツ（サトイモ科のカラスビシャクのコルク層を除いた塊茎を基原とする生薬）が配合されている場合もある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問10 鎮咳去痰薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a クレゾールスルホン酸カリウムは、口腔内及び咽頭部において局所的に殺菌消毒することを目的として用いられる。
- b メトキシフェナミン塩酸塩は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させ、咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- c チペピジンヒベンズ酸塩は、気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させることにより、咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- d エチルシステイン塩酸塩は、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させることにより、痰の切れを良くすることを目的として用いられる。

- 1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問11 鎮咳去痰薬に係る受診勧奨等に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2箇所の(a)、(b)内はいずれも同じ字句が入る。

咳や痰、息切れ等の症状が長期間にわたっている場合には、慢性気管支炎や肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患((a))の可能性があり、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。(b)は、咳や痰などの呼吸器症状を遷延化・(c)させ、(a)のリスク要因の一つとして指摘されており、(b)に伴う症状のため鎮咳去痰薬を漫然と長期間にわたって使用することは適当でない。

	a	b	c
1	COPD	喫煙	慢性化
2	CKD	喫煙	慢性化
3	CKD	飲酒	変化
4	COPD	飲酒	慢性化
5	CKD	喫煙	変化

問12 次の鎮咳去痰薬で用いられる漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウを含んでいないものはどれか。

- 1 半夏厚朴湯
- 2 麦門冬湯
- 3 五虎湯
- 4 柴朴湯

問13 口腔咽喉薬又はうがい薬（含嗽薬）の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a グリチルリチン酸二カリウムは、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として用いられる。
- b アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して配合される。
- c ポピドンヨードが配合されたうがい薬（含嗽薬）では、その使用によって銀を含有する歯科材料（義歯等）が変色することがある。
- d クロルヘキシジングルコン酸塩は、喉の粘膜を刺激から保護する成分として用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	正	誤

問14 胃の薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 制酸薬は、胃酸の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐きけ等の症状を緩和することを目的とする医薬品である。
- b 消化薬は、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする医薬品である。
- c 健胃薬は、弱った胃の働きを高めること（健胃）を目的とする医薬品である。配合される生薬成分は独特の味や香りを有し、唾液や胃液の分泌を抑えて胃の働きを活発にする作用があるとされる。
- d センブリなどの生薬成分が配合された健胃薬は、刺激が強いため、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用するとよい。

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 1 5 次の胃腸薬の使用にあたって注意すべき記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

1 日量 9 錠中	
セトラキサート塩酸塩	600mg
ロートエキス 3 倍散 (ロートエキスとして 30mg)	90mg
沈降炭酸カルシウム	1,200mg
水酸化マグネシウム	300mg

- a 胃腸鎮痛鎮^{けい}瘕薬との併用を避ける必要がある。
- b 母乳を与えている女性では、母乳が出にくくなることがある。
- c 便秘や下痢の症状が現れることがある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	正	正	正

問 1 6 浣^{かん}腸薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a グリセリンが配合された浣^{かん}腸薬は、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるとの報告がある。
- b ソルビトールは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。
- c 炭酸水素ナトリウムを主薬とする坐^ざ薬は、まれに重篤な副作用としてショックを生じることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

問 1 7 駆虫薬の成分に関する以下の記述について、あてはまるものはどれか。

アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び^{ぎょう}蟯虫の運動筋を麻痺^ひさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。副作用として、^{けいれん}痙攣、^{けん}倦怠感、眠気、食欲不振、下痢、便秘等が現れることがある。

- 1 サントニン
- 2 カイニン酸
- 3 ピペラジンリン酸塩
- 4 パモ酸ピルビニウム

問 1 8 腸の薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヒマシ油は、吸収された成分の一部が乳汁中に移行して、乳児に下痢を引き起こすおそれがあり、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける必要がある。
- b ビサコジルは、胃や小腸で消化されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、分解生成物が大腸を刺激して^{しゃ}瀉下作用をもたらすと考えられている。
- c マグネシウムを含む成分は、一般に消化管からの吸収は少ないとされているが、一部は腸で吸収されて尿中に^{せつ}排泄されるため、腎臓病の診断を受けた人では、高マグネシウム血症を生じるおそれがある。
- d カルメロースナトリウムは、腸内細菌により分解されて生じるガスによって便通を促すとされている。^{しゃ}瀉下薬としては比較的作用が穏やかなため、主に乳幼児の便秘に用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問19 胃の薬に配合される成分に関する以下の記述について、あてはまるものはどれか。

胃粘液の分泌を促す、胃粘膜を覆って胃液による消化から保護する、荒れた胃粘膜の修復を促す等の作用を期待して配合される。

- 1 ユウタン
- 2 トロキシピド
- 3 プロザイム
- 4 ジメチルポリシロキサン

問20 強心薬とその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。
- b リュウノウは、心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）があるとされる。
- c ゴオウは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- d ジャコウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬で、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりとさせる等の作用があるとされる。

- 1 (a, b) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (c, d)

問 2 1 高コレステロール改善薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ガンマ - オリザノールは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成する。
- b 大豆油不^{けん}化物（ソイステロール）には、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c パンテチンは、LDL 等の異化排^{せつ}を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を低下させ、HDL 産生を高める作用があるとされる。
- d ビタミン E は、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害の緩和等を目的として用いられる。

1 (a , c) 2 (a , d) 3 (b , c) 4 (b , d)

問 2 2 貧血症状と鉄製剤の働きに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄欠乏性貧血とは、赤血球に含まれる色素、ヘモグロビンの生合成に必要な鉄分が不足して生じる貧血である。
- b 鉄製剤服用の前後 30 分にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、コーヒー等）を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が促進される。
- c 体の成長が著しい年長乳児や幼児、月経血損失のある女性、鉄要求量の増加する妊婦・母乳を与える女性では、鉄欠乏状態を生じやすい。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

問23 循環器用薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヘプロニカートは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- b 日本薬局方収載のコウカを煎じて服用する製品は、冷え症及び血色不良に用いられる。
- c ユビデカレノン[®]は、心筋の酸素利用効率を低下させることによって血液循環の改善効果を示すとされる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

問24 痔^じ及び痔^じの薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 痔核^{じこく}は、肛門^{こうもん}に存在する細かい血管群が全体的に収縮し、肛門内にいぼ状の腫れが生じたもので、一般に「いぼ痔^{いぼじ}」と呼ばれる。
- b 痔瘻^{じろう}は、肛門内部^{こうもんうちぶ}に存在する肛門腺窩^{こうもんせんか}と呼ばれる小さなくぼみに糞便^{ふんべん}の滓^{かす}が溜まって炎症・化膿^{のう}を生じた状態である。
- c 外用痔疾用薬^{じじやくようやく}は、局所に適用されるものであり、全体的な影響を生じることはない。
- d 内用痔疾用薬^{じじやくようやく}には、肛門周囲^{こうもんしゅうい}の末梢血管の血行を促して、鬱血^{うくけつ}を改善する効果を期待して、ビタミンE（トコフェロール酢酸エステル等）が配合されている場合がある。

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (c, d) 4 (b, d)

問25 外用痔疾用薬の配合成分とその配合目的の関係が正しいものの組み合わせはどれか。

	【配合成分】		【配合目的】
a	アラントイン	—	組織修復作用
b	イソプロピルメチルフェノール	—	粘膜の保護・止血
c	リドカイン	—	局所の感染防止
d	プレドニゾロン酢酸エステル	—	肛門部の炎症や痒みの緩和

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問26 次の泌尿器用薬の配合成分のうち、利尿作用のほかに、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられるものはどれか。

- 1 ブクリョウ
- 2 ウワウルシ
- 3 キササゲ
- 4 サンキライ
- 5 ソウハクヒ

問27 婦人薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 女性ホルモン成分は、妊娠中の摂取によって胎児の先天性異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避ける必要がある。
- b ジオウ（ゴマノハグサ科のアカヤジオウ等の根又はそれを蒸したものを基原とする生薬）は、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- c コウブシ（カヤツリグサ科のハマスゲの根茎を基原とする生薬）は、鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

問28 内服アレルギー用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カルビノキサミンマレイン酸塩は、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- b メキタジンは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板増加を生じることがある。
- c ジフェンヒドラミン塩酸塩は、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがある。
- d ヨウ化イソプロパミドは、鼻腔内の刺激を伝達する交感神経系の働きを抑えることによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑える作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

問29 鼻に用いる薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a フェニレフリン塩酸塩は、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒みを抑える局所麻酔成分として用いられる。
- b テトラヒドロゾリン塩酸塩は、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、花粉、ハウスダスト（室内塵）等による鼻アレルギー症状の緩和を目的として、通常、抗ヒスタミン成分と組み合わせて配合される。
- c クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎に対しても有効である。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	誤	誤

問30 眼科用薬の配合成分とその配合目的の関係が正しいものの組み合わせはどれか。

【配合成分】		【配合目的】
a ナファゾリン塩酸塩	—	結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去する
b プラノプロフェン	—	抗炎症作用
c スルファメトキサゾール	—	結膜や角膜の乾燥を防ぐ
d パントテン酸カルシウム	—	細菌感染による結膜炎などの化膿 ^{のう} 性症状の改善

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問31 毛髪用薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 カシユウは、ウコギ科のトチバニンジンの根茎を、通常、湯通ししたものを基原とする生薬で、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。
- 2 ヒノキチオールは、タデ科のツルドクダミの塊根を基原とする生薬で、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。
- 3 カルプロニウム塩化物は、末梢組織（適用局所）において抗コリン作用を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- 4 エストラジオール安息香酸エステルは、女性ホルモンによる脱毛抑制効果を期待して配合されている場合がある。

問32 歯槽膿漏薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 歯槽膿漏薬は、歯肉炎、歯槽膿漏の諸症状の緩和を目的とする医薬品である。患部局所に適用する外用薬のみあり、内服で用いるものはない。
- b 歯肉溝での細菌の繁殖を抑えることを目的として、イソプロピルメチルフェノールが配合されている場合がある。
- c 炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して、カルバゾクロムが配合されている場合がある。
- d コラーゲン代謝を改善して炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待して、セチルピリジニウム塩化物が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	正

問33 口内炎及び口内炎用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 口内炎や舌炎は、いずれも口腔粘膜に生じる炎症で、口内炎用薬は、これらの症状の緩和を目的として口腔内局所に適用される外用薬である。
- b 口内炎は、一般用医薬品の副作用として現れることはない。
- c 口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待して、アクリノールが配合されている場合がある。
- d 口内炎用薬は、口腔内を清浄にしてから使用することが重要であり、口腔咽喉薬、含嗽薬などを使用する場合には、十分な間隔を置くべきである。

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問34 禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 禁煙補助剤は、ニコチン離脱症状を軽減するニコチン置換療法に使用される、ニコチンを有効成分とする医薬品である。
- b 咀嚼剤は、菓子のガムのように噛むと唾液が多く分泌され、ニコチンが唾液とともに飲み込まれてしまい、肺からの吸収が十分なされず、吐きけ等の副作用が現れやすくなる。
- c 禁煙補助剤は、通常、喫煙の量を徐々に減らしながら使用する。
- d 投与経路の異なる他のニコチン含有製剤を併用しても、ニコチンの過剰摂取とはならないため、禁煙達成を早めることができる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	誤

問35 滋養強壮保健薬とその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般用医薬品におけるビタミンAの1日分量は、4000国際単位が上限となっている。
- 2 エルゴカルシフェロールが主薬として配合された製剤は、骨歯の発育不良、くる病の予防に用いられる。
- 3 トコフェロールが主薬として配合された製剤は、末梢血管障害による胃・首すじのこり、手足のしびれ、更年期におけるのぼせ、月経不順の症状の緩和等に用いられる。
- 4 アスパラギン酸ナトリウムは、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。
- 5 ヘスペリジン^{ヘスペリジン}は、ビタミン様物質のひとつで、ビタミンDの吸収を助ける等の作用があるとされる。

問36 漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 漢方薬を使用する場合、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要であり、漢方の病態認識には虚実、陰陽、気血水、五臓などがある。
- b 漢方処方製剤は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。
- c 漢方薬は作用が穏やかで、副作用はない。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

問37 漢方処方製剤の十全大補湯じゅうぜんたいほとうに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 体力が充実して脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの胃炎、常習便秘、高血圧や肥満に伴う肩こり・頭痛・便秘、神経症、肥満症に適すとされる。
- b まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることが知られている。
- c 構成生薬としてカンゾウを含まない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

問38 漢方処方製剤の防風通聖散ぼうふうつうしょうさんに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 他の瀉下薬しゃげと併用して使用される。
- b 構成生薬としてカンゾウ、マオウ、ダイオウを含む。
- c 便秘に用いられる場合には、漫然と長期の使用は避け、1週間位使用しても症状の改善がみられないときは、いったん使用を中止して専門家に相談するなどの対応が必要である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

問39 消毒薬の殺菌消毒成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a トリクロロイソシアヌル酸等の有機塩素系殺菌消毒成分は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が強いため、プール等の大型設備の殺菌・消毒には適していない。
- b クレゾール石鹼液けんは、結核菌を含む一般細菌類、ウイルスに対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、真菌類に対する殺菌消毒作用はない。
- c エタノールのウイルスに対する不活性効果は、イソプロパノールよりも低い

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	誤
5	誤	誤	誤

問40 一般用検査薬を用いた尿糖・尿タンパク検査に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 検体に、対象とする生体物質と化学構造がよく似た物質が混在しても、疑陽性となることはない。
- b 正確な検査結果を得るためには、中間尿ではなく、出始めの尿を採取して検査することが望ましい。
- c 尿タンパクの場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、激しい運動の直後の採尿は避ける必要がある。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	誤
5	誤	誤	正

医薬品の適正使用・安全対策

問 4 1 医薬品の適正使用情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 要指導医薬品又は一般用医薬品の添付文書は、一般の生活者に理解しやすい平易な表現で記載されているが、その内容は一般的・網羅的なものとならざるをえない。
- b 医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等への情報提供および相談対応を行う際に、添付文書や製品表示に記載されている内容を的確に理解する必要はない。
- c 医薬品は、効能・効果、用法・用量、起こり得る副作用等、その適正な使用のために必要な情報（適正使用情報）を伴って初めて医薬品としての機能を発揮するものである。
- d 一般用医薬品は、薬剤師、登録販売者その他の医薬関係者から提供された情報に基づき、一般の生活者が購入し、自己の判断で使用するものである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問4 2 一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 守らないと症状が悪化する事項、副作用又は事故等が起こりやすくなる事項について、「してはいけないこと」として記載されている。
- b 添付文書の販売名の上部に、「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと。また、必要なときに読めるよう大切に保存すること。」等の文言が記載されている。
- c 販売名に薬効名が含まれているような場合には（例えば、「〇〇〇胃腸薬」など）、薬効名の記載は省略されることがある。
- d 薬効名とは、その医薬品の薬効又は性質（例えば、主たる有効成分など）が簡潔な分かりやすい表現で示されたものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	正	正
5	正	正	正	誤

問4 3 次の成分のうち、それを含有する一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「本剤又は本剤の成分、牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人」と記載することとされているものはどれか。

- 1 リゾチーム塩酸塩
- 2 タンニン酸アルブミン
- 3 ヒアルロン酸ナトリウム
- 4 ホウ酸
- 5 アスピリン

問4 4 次の成分のうち、長期間服用した場合、アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を発症したとの報告があるため、それを含有する一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「透析療法を受けている人」と記載することとされているものはどれか。

- 1 トラネキサム酸
- 2 トコフェロール
- 3 オキセサゼイン
- 4 イブプロフェン
- 5 スクラルファート

問4 5 次の成分のうち、目のかすみ、異常なまぶしさを生じることがあるため、それを含有する一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」と記載することとされているものはどれか。

- 1 フェルビナク
- 2 ピレンゼピン塩酸塩水和物
- 3 ダイオウ
- 4 カフェイン
- 5 インドメタシン

問4 6 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、胃・十二指腸潰瘍の診断を受けた人は、その成分が含まれる医薬品を使用（服用）する前に、専門家に相談するよう注意を求めている成分として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アスピリン
- b マオウ
- c 次硝酸ビスマス
- d グリチルリチン酸二カリウム

- 1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問47 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を別の容器に移し替えると、日時が経過して中身がどんな医薬品であったか分からなくなってしまうことがあり、誤用の原因となるおそれがある。
- b 家庭内において、小児が容易に手に取れる場所（病人の枕元など）、又は、まだ手が届かないと思っても、小児の目のつくところに医薬品が置かれていた場合に、誤飲事故が多く報告されている。
- c 点眼薬では、複数の使用者間で使い回されると、万一、使用に際して薬液に細菌汚染があった場合に、別の使用者に感染するおそれがある。
- d カプセル剤、散剤は、冷蔵庫内での保管が適当である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	正	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 4 8 一般用検査薬の製品表示に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品によっては添付文書の形でなく、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第 52 条の規定に基づく「用法、用量その他使用及び取扱い上必要な注意」等の記載を、製品の外箱等に行っている場合がある。
- b エアゾール製品は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の規定による法定表示事項のほか、高圧ガス保安法に基づく注意事項として「高温に注意」などの注意事項が記載されている。
- c 使用期限の表示については、適切な保存条件の下で製造後 3 年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品において、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づく表示義務はない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	正	正	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

問 4 9 医薬品又は医療機器の緊急安全性情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に、厚生労働省から医療機関や薬局等へ直接配布される。
- b A4 サイズの黄色地の印刷物で、エマージェンシーレターとも呼ばれる。
- c 医療用医薬品や医家向け医療機器についての情報伝達である場合が多いが、一般用医薬品にも関係する緊急安全性情報が発出されたこともある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

問50 医薬品又は医療機器の安全性速報に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な注意喚起や適正使用のための対応の注意喚起が必要な状況にある場合に、(a)からの命令、指示、製造販売業者の自主決定等に基づいて作成される。(独)医薬品医療機器総合機構による医薬品医療機器情報配信サービスによる配信、製造販売業者からの医療機関や薬局等への直接の配布、ダイレクトメール、ファクシミリ、電子メール等による情報提供((b))等により情報伝達されるものである。

A4サイズの青色地の印刷物で、(c)とも呼ばれる。

	a	b	c
1	厚生労働省	1か月以内	ブルーレター
2	厚生労働省	1か月以内	ドクターレター
3	厚生労働省	2週間以内	ブルーレター
4	都道府県知事	2週間以内	ドクターレター
5	都道府県知事	2週間以内	ブルーレター

問51 医薬品・医療機器等安全性情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 厚生労働省においては、医薬品、医療機器等による重要な副作用、不具合等に関する情報を原則、毎月とりまとめ、広く一般消費者向けに情報提供を行っている。
- b 一般用医薬品に関する情報も含まれる。
- c 各都道府県等へ冊子が送付され、厚生労働省ホームページ及び(独)医薬品医療機器総合機構ホームページにも掲載される。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

問5 2 (独) 医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」において、要指導医薬品及び一般用医薬品に関連した情報として掲載されている情報の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の承認情報
- b 医薬品の製品回収に関する情報
- c 医薬品の生産量及び生産額情報
- d 製造販売業者等や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問5 3 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 本制度による報告は、都道府県知事に行わなければならない。
- 2 登録販売者は、本制度に基づく報告義務がある。
- 3 医薬関係者からの情報を広く収集することによって、医薬品の安全対策のより着実な実施を図ることを目的としている。
- 4 医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、その旨を報告しなければならない。

問54 医薬品の副作用情報等の評価及び措置に関する記述について、()に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

収集された副作用等の情報は、その医薬品の製造販売業者等において評価・検討され、必要な安全対策が図られる。各制度により集められた副作用情報については、(a)において(b)の意見を聴きながら調査検討が行われ、その結果に基づき、厚生労働大臣は、(c)の意見を聴いて、安全対策上必要な行政措置を講じている。

	a	b	c
1	(独) 医薬品医療機器総合機構	製造販売業者	厚生科学審議会
2	厚生労働省	専門委員	厚生科学審議会
3	(独) 医薬品医療機器総合機構	専門委員	薬事・食品衛生審議会
4	厚生労働省	専門委員	薬事・食品衛生審議会
5	厚生労働省	製造販売業者	薬事・食品衛生審議会

問55 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第68条の10第2項の規定に基づく医薬品の副作用等の報告に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品との因果関係が明確でない場合は報告の対象とならない。
- b 報告者に対しては、安全性情報受領確認書が交付される。
- c 報告期限は、特に定められていない。
- d 報告書の送付は、郵送又はファクシミリによるほか、電子メールを利用して行うこともできる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 5 6 医薬品副作用被害救済制度による救済給付の種類として、誤っているものはどれか。

- 1 医療費
- 2 遺族育英年金
- 3 葬祭料
- 4 障害年金

問 5 7 医薬品副作用被害救済制度に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による被害者の迅速な救済を図るための、製薬企業の社会的責任に基づく公的制度である。
- b 健康被害を受けた本人（又は家族）が給付請求を行う。
- c 生物由来製品を介した感染等による健康被害も給付の対象となる。
- d 給付は、医学的薬学的判断を要する事項について薬事・食品衛生審議会の諮問・答申を経て、都道府県知事が判定した結果に基づいて行われる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問58 一般用医薬品の安全対策に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a)については、インターフェロン製剤との併用例による(b)が報告されたことから、1994年1月、インターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされた。

	a	b
1	小青竜湯	間質性肺炎
2	小青竜湯	皮膚粘膜眼症候群
3	小柴胡湯	皮膚粘膜眼症候群
4	小柴胡湯	肝機能障害
5	小柴胡湯	間質性肺炎

問59 一般用医薬品の安全対策に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2箇所の(a)内はいずれも同じ字句が入る。

(a)は我が国においては鼻みず、鼻づまり等の症状の緩和を目的として、鼻炎用内服薬、鎮咳去痰薬、かぜ薬等に配合されていたものであったが、2003年8月までに、(a)が配合された一般用医薬品による(b)等の副作用症例が複数報告され、それらの多くが用法・用量の範囲を超えた使用又は禁忌とされている高血圧症患者の使用によるものであった。そのため、厚生労働省から関係製薬企業等に対して、使用上の注意の改訂、情報提供の徹底等を行うとともに、代替成分として、(c)等への速やかな切替えについて指示がなされた。

	a	b	c
1	塩酸フェニルプロパノールアミン	腎不全	プロカイン塩酸塩
2	塩酸フェニルプロパノールアミン	脳出血	プソイドエフェドリン塩酸塩
3	塩酸フェニルプロパノールアミン	脳出血	プロカイン塩酸塩
4	マレイン酸クロルフェニラミン	脳出血	プロカイン塩酸塩
5	マレイン酸クロルフェニラミン	腎不全	プソイドエフェドリン塩酸塩

問60 医薬品の適正使用のための啓発活動に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、毎年6月20日～7月19日までの1ヶ月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及活動が実施されている。
- b 医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年10月17日～23日の1週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動等が実施されている。
- c 医薬品の適正使用の重要性等に関して、小中学生のうちからの啓発が必要である。
- d 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚せい剤、大麻等）によるもので、一般用医薬品で生じることはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤